

子どもたちのための文芸雑誌

近年、子ども達の活字離れが進んでおり、読書が嫌いな子どもが沢山いる。

本を読むこと・書くことを楽しいと思ってもらえるような雑誌を作ればよいのでは!



この雑誌の特徴★

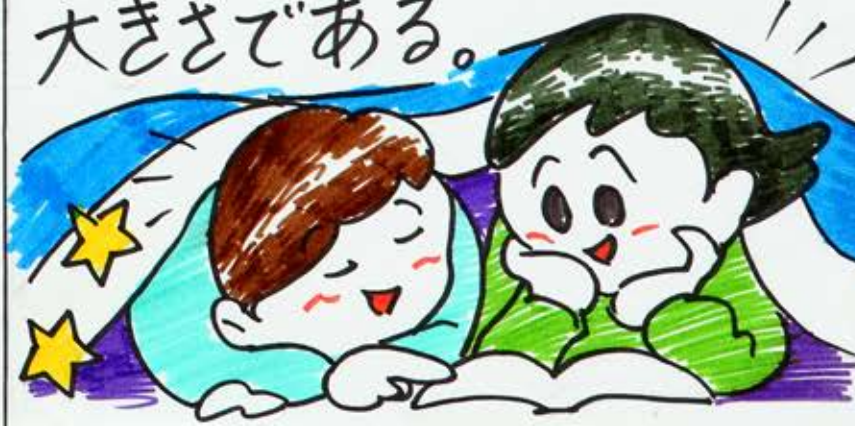
この雑誌は季刊で、その季節に合ったお話が掲載される。

対象は小学生で、語彙や漢字などを考慮して低学年向けと高学年向けがある。

長編の連載、読みきりの短編、詩や俳句などが掲載され、低学年向けには絵本もある。



読みもののジャンルは、ファンタジー、ミステリー、ノンフィクションなど問わず、男の子向け、女の子向けも分けない。そうすることで、子どもが様々な視点や考え方を持つことができるようになる。子ども向けなので、挿絵も多く、文字も読みやすい大きさである。



注 目

また、この雑誌の最も注目すべきポイントは、読者の投稿ページである。このページは沢山とて、読みきりの短編や詩などできるだけ沢山掲載される。これに投稿しようとするので、文章を自分で書いてみようかなと考える子どもが増えるのではないだろうか。そして、楽しみながら表現力や文章を作る力が養われると考える。



この雑誌は、漫画雑誌などと一緒に店頭に並べられると、より手軽に手にとりやすいと思う。表紙も、子どもが手にとりたくなるような、華やかなデザインにする。



学校で、朝に読書の時間を設けるなどして、活字離れを防ぐ取り組みが行われている。しかし、それでは自分の読みたい本だけ読んでしまい、思考が偏ってしまう。だからといって、興味の無い本を読めと言われるのはしんどいし、読書が嫌いになってしまうかもしれない。その点、雑誌だと自然に様々なジャンルに少しずつ触れることが

できる。これにより、広い視野をもつことができ、世界が広がる。



私は、なぜ子ども向けの漫画雑誌はあるのに、読みものの雑誌はないのかと疑問に思っていた。雑誌という、手軽で一度に沢山の情報に触れることができるものを使って、子どもたちが将来につながる、読みものの楽しさ、書くことの面白さを知ることができたらいいなと思う。